

粒子重力流研究集会 2024 に参加・後援しました

11月25～26日、京都大学宇治キャンパスにて、2024年度分野横断型研究集会「地球表層における粒子重力流：理論・実験・観測と防災への応用に向けて」が開催されました。本集会を主催する粒子重力流研究会は、様々な粒子重力流(土石流、洪水流、雪崩、混濁流、火砕流、溶岩流など)に対し各学術分野で蓄積された知見を共有・統合し、各現象の類似点・相違点の理解を深めることを目標に、2021年に設立され、毎年研究集会を開催するなど日頃から情報共有を図り、研究の進展に努めています。

なお、本集会については、砂防技術総合研究所の志水主任研究員が実行委員長を務め、当センターも後援しています。

(研究集会 HP: <https://sites.google.com/view/gravity-current2024/>)

今回は、オンラインを含め約250名が参加し、流れ底面での粒子の侵食・堆積プロセス、流れ上面での周囲流体の取り込み、実験・観測との比較による数値モデルの妥当性等について7名による講演と、14名による各2分間のポップアップがあり、土砂災害以外の専門家も参加し、刺激的な内容でした。総合討論では、防災への応用に向けた課題の整理、その課題解決や研究会目標達成に向けた基礎研究的課題について意見が交わされました。

同会は、今後も定期的に研究集会を開催予定ですので、興味のある学生や技術者、研究者の皆さんも是非ご参加ください。

(詳細は、志水主任研究員までお問合せください。)



「開催にあたって」の様子



総合討論の様子



聴講の様子



会場参加者(2日目)